

# 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 41号  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
発行日 2004. 12. 15  
編集 芳村恵子  
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

## 第10回中四国ブロック 青少年育成アドバイザー研究集会島根大会 に参加して

東邦子

10月30日

長年の念願だった同期の島根県アドバイザーの方にお会いでき、大感激の内に開会行事が始まりました。

総勢20名程の小中学生からなる「きんたわらべ太鼓」の勇壮な太鼓の音に感激していると、今度は中学3年生の男の子が神楽を舞い始めました。恵比寿様の面をつけ、ユーモラスな所作で観客の笑いを取り、また客席に降りて来て観客と一体になって、楽しい舞を演じてくれました。恵比寿様の『びく』の中にはキャンディーが一杯入っていて、客席に投げたくれたのも楽しいサービスでした。中学3年生とは思えないような動きやサービス精神に感動しました。

わらべ太鼓にしても、この石見神楽にしても、代々受け継がれてきた伝統文化を、子ども達が誇らしげに受け継いで演じている。そのことに大変感動し、新しい住宅地に住んでいる私達には何も無いなあ、少々寂しい思いもし、何か受け継いで行なって貰えるものを見つけないものだと思います。

その後、紙すきとウエスタン乗馬の体験コーナーがあり、鳥取勢は乗馬にチャレンジしました。残念ながら私はスカート族の為、馬に乗ることはできませんでしたが、西浦さん・芳村さんの馬上のりりしい(?)姿をカメラに収めることができました。その馬舎でも、一生懸命馬の世話をする小学4～5年生の男の子の姿を見ることができました。

夜の交歓会には、有名な伝統芸能「おろち退治」の勇壮な舞台を見せていただき堪能いたしました。素晴らしかったです。

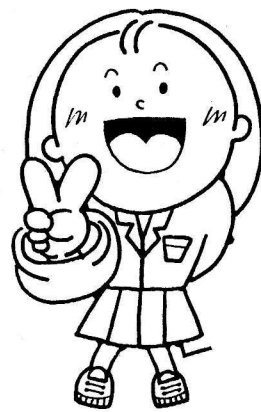
10月31日

事例発表として、浜田警察署少年補導員の上部さんが「青少年サポート・ハマダ」を立ち上げられ、そこでの活動の事例を基に話されました。「毎週のように家出を繰り返す少年」「男の子ばかり三人の家

庭」「非行が悪化している子ども」等について話され、子どもの心に目を向けて欲しいと訴えられました。

また、幼い子どもを犯罪から守る為の「いかのおすし」を教えていただきました。

いかないよ (行かないよ)  
のらないよ (乗らないよ)  
おおごえだすよ (大声だすよ)  
すぐにげる (すぐ逃げる)  
しらせるよ (知らせるよ)



保育園や幼稚園の子ども達に教える合い言葉だそうです。

続いて、元中学校の校長先生であり、心の教育コーディネーター・スクールカウンセラー等などをされている稲田彰氏による講演「子どもの自立と大人のかかわり」をお聞きしました。

ユーモアを交えた語りの中に、子どもへの愛情があふれている方だと感じました。ご自分の体験された「荒れた中学校」時代の、荒れた子どもとどう向き合ったか、どう立ち直っていったか等の貴重な体験をお聞きしました。

【思春期真っ只中の子どもは、自分でもどうしていいか分からない感情のほとぼしりがある。それが青春なのだ。その時期を上手く過ごせたら自然に治ってくるものだ。上手く過ごさせる為、大人が如何に手を差しのべるか。思春期の子どもには、起承転結に説教してもダメである。自分の身体の中に起こっている矛盾と戦っていると考えべきである。彼らと視線を同じくすることが必要である。「自立」を本格的にやらなければならないのが、思春期であると考え。】

するなど、学校現場での数々の体験を基にしたお話は大変興味深く、先生の優しさにも感動し、もっと時間があれば…と思いながらお聞きしました。

島根県金城町という山あいの町で、町あげての歓迎を受け、楽しい二日間の研修を終える事ができました。島根の大会関係者の方々に、厚くお礼申し上げます。

## 「中核的指導者養成中央研修会」報告

期 日：平成16年9月21日(火)～23日(木・祝)

参加者：鳥取県より山本・西浦・熊本・松原・井上 以上5名

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都 代々木)

- 1日目 講義Ⅰ「なぜ、いま、中核的指導者の養成か」 講師：上村 文三先生  
講義Ⅱ「青少年育成環境の現状」 講師：金谷 敏郎先生  
活動情報交流と懇親(参加者交流会)
- 2日目 講義Ⅲ「現状・実態把握の必要と方策」「運動の目標の設定と評価の実施」  
ワークショップ「市町村民会議の活性化のための行動計画案の作成(各都道府県)」
- 3日目 全体研修、総括

### ☆昨年の本研修において掲げた課題と、その後について…

#### 平成15年度

鳥取グループでは下記の課題を設定し、実施主体は市町村民会議とし、期間は各々5年計画とし、3年目に見直しを行うこととした。絵にかいたモチで終わらせないためには…。

#### 課題1：乳幼児期の大切さを見直す

(目標)『心豊かで自立した人間に育てる』 →子育てネットワークづくりの実施

#### 課題2：子どもの年齢によって異なる所管のネットワーク化を図る

(目標)『行政の壁を取り払う』 →子どもに関わりのある官民一体のネットワークづくり

#### 課題3：市町村民会議に参画・協働できる人材育成 →青少年育成アドバイザーの育成

(目標)『官民間わず主体的に参画・協働できる人を育てる』

#### 平成16年度

形骸化した組織と活動のマンネリ化を打破し、組織の再構築と活動の活発化を図るため、次のとおり課題を設定し、改革案を作成した。

### ☆市町村民会議の活性化のための行動計画案

#### 課題1：組織の活発化

会長を民間から選び、構成委員を各種団体の活動できる人材にする。

そのため、市町村民会議に活性化委員会を組織し、改革を行う。

#### 課題2：活動のマンネリ化の打破

##### 青少年の参画

具体的には、昨年度この研修会で計画した「心豊かで自立した人間に育つ支援事業」「主体的に参画、協働する人材育成事業」「青少年育成アドバイザー養成講座の受講促進」等を実施する。

#### 課題3：自主財源の確保

全戸から会費300円を徴収する。自治会を通して徴収を要請する。企業や各種団体の協賛金を依頼する。

芳村恵子

会場に向かう道すがら、偶然出合った中学生が心地良い挨拶をしてくれた。見るからに大き目の鞆を手に歩いている旅行客らしいおばさん達にである。

そして集会が始まって、オープニングセレモニーを観た時、「ああ。なるほどな。」と、あの中学生の姿が目に見えかけた。これほどの自信たっぷりの素晴らしい演技が出来る子ども達だからこそ心豊かな日々を送り、当たり前のごとく知らない人にも自然に挨拶する事が身につけているのだろう。



国民会議の湊氏が、「その国の将来はその国の子ども達を見れば分かる」と言われた。まさに、金城の将来を見せて頂いた思いだった。

この頃自分に自信がもてない若者が多い。一つでいいから「これなら任せて」を持っている子、そしてそんな子を育てられる大人が増えていけば、もっともっと幸せな国になっていけると思う。稲田氏の講演も、私達には見えにくかった子どもの目を通して、子ども達に「生きる力」をつけさせる為の大人の役割を教えて頂いた。

忙しい日々の中、幸せな時を過ごす事が出来ました。有難うございました。

(中国・四国ブロック青少年育成アドバイザー  
ニュースの原稿として)



ある方の講演で、詩の朗読がありました。  
よみひと知らずですが、紹介します。

『聴いてください』

「私の話しを聴いてください」と頼むと  
あなたは助言を始めます  
私はそんなことを望んではいないので  
「私の話しを聴いてください」と頼むと  
あなたはその理由について話し始めます  
申し訳ないと思いつつ  
私は不快になってしまいます  
「私の話しを聴いてください」と頼むと  
あなたは何とかして私の悩みを解決しよう  
という気になります  
おかしなことにそれは私の気持ちに反するのです  
祈ることに慰めを見出す人がいるのは  
そのためでしょうか  
神は無言だからです  
助言したり調整しようとはしません  
神は聴くだけで悩みの解決は  
自分に任せてくれます  
だからあなたも  
どうか黙って私の話しを聴いて  
ください  
話しをしたかったら  
私が話し終わるまで少しだけ  
待ってください  
そうすれば私は必ず  
あなたの話しに耳を傾けます



編集後記

クリスマスの飾りがあちこちで見られるようになったと思ったら、早くも門松までがお店の入り口にどっかりと置かれていました。  
この師走の風景とは不釣合いなお天気が続いています。この冬は雪かきなんてあるのかしらと思いつつ、年賀状の準備を始めています。  
皆様、酉年の来年も良い年でありますようにお祈りいたします。

